



- 1.水消火器による消火訓練
- 2.簡易トイレ組み立て練習
- 3.2次避難所での訓練
- 4.2次避難所内の様子
- 5.中学生が避難者を誘導する様子
- 6.粉末消火器による消火訓練
- 7.高校生による応急手当訓練
- 8.婦人防火クラブによる炊出し訓練
- 9.簡易担架作り講習
- 10.火災を想定した煙中訓練
- 11.住民の方による応急手当訓練
- 12.幼年消防クラブによる防火の誓い・火の用心の歌



近年、日本各地で局地的な豪雨や地震などの自然災害が多発しています。昭和53年6月12日に発生した「宮城県沖地震」、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」の災害経験を基に、今後も起こり得る災害に備えるため「宮城県民総合防災の日」に併せて「6・12総合防災訓練」が行われました。

今年は関地区を重点地区として、日頃から家庭や地域において防災への意識と災害に立ち向かう体制づくりを進めるため、地域住民や学校、消防団などが参加し、各種訓練を行いました。地震発生を想定したサイレンの合図で住民の皆さんは指定された避難場所に一次避難訓練を行い、消防団や民生委員、自治会の方々が安否確認や住民の避

難誘導を行いました。また、避難場所のひとつである七ヶ宿中学校では、中学生が校舎内への誘導やケガ人の確認、簡易トイレなどの避難用具の組み立てと設置の訓練も併せて行いました。活性化センターでは、白石高校七ヶ宿校の生徒が避難者の受付などをサポートし、婦人防火クラブは炊出し訓練を行いました。

参加した方からは「今回の訓練で防災の意識が高まった」「実際にAEDを使用した訓練ができて良かった」などの声が聞かれました。

訓練には多くの方が参加し、地域や学校との合同により災害が発生した際の行動を再確認した訓練となりました。

6・12総合防災訓練

——もしもに備えて——